

春風秋霜 8月号

平成 30 年 8 月 1 日
島田市教育委員会だより
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一喬

1 コミュニケーション力の育成について

文化庁から文化審議会国語分科会でまとめられた「分かり合うための言語コミュニケーション(報告)」という冊子が送られてきました。

これからの子供たちには、少子化・国際化・情報化の急速な進展に伴い、考え方や生活習慣、文化的背景の違う人たちと接する機会が多くなるので、異なりや多様性に留意しながら伝え合う力が求められます。

しかし、この報告書では、伝え合うことへの萎縮が進んでいると言っています。近年、誤解をされたり、人間関係を損ねたりすることを恐れ、のびのび伝え合うことができない人がいます。また、SNS を介した短い言葉のやり取りが増え、語彙力が十分に身に付いていない若者も増えています。

これからの時代のコミュニケーションとして、「理解し合えない場合にも異なりを認める」「敬意と親しさをバランスよく示す」「自分の言葉や言葉のつかい方を鍛える」「言葉の重みを再認識する」などが示されています。

初倉中学校区に指定した「夢育・地育」の研究の中には、コミュニケーション能力の向上も含まれています。これからの子供たちには、コミュニケーション力の向上が重要だと考えたからです。この報告書は、この考えを整理してくれたと思います。全ての教職員がコミュニケーション力の育成を意識した指導をしてほしいと願っています。

2 体罰の防止について

県東部の高校の教諭が、6月に体罰によって処分されています。体罰については繰り返し管理職から指導されていたにもかかわらず、自分の行っていることは指導の範疇だと思い込んでいたようです。

内外教育の6月8日号には、「間接暴行」に注意という記事が載っていました。体罰の範囲は確実に広がっており、殴る・蹴るといった典型的な体罰に加え、罰走等のしごきも体罰に該当するようになってきました。更に、「間接暴行」という概念も一般化しつつあると記事では述べています。

また、平成29年11月、盛岡地方裁判所において、「体育教官室という閉鎖された室内において、約1時間にわたって、威圧的に厳しく叱責し、鍵を壁に投げつけたり、机を強打したりする」ということが間接な暴行と認定され、20万円の支払いを命じる判決が出されたと紹介されています。

更に、被害者に被害感情が無くても、体罰が客観的に認定されたことも、この記事は説明しています。子供や保護者の被害申し立てが無くても、指導として行われたことが体罰と認定されることを十分に認識しておく必要があります。

3 日本人の自己肯定感について

6月19日の中日新聞に2010年に行われた高校生アンケートの記事がありました。その記事によると、「私は先生に優秀だと認められている」との問いに、肯定的に答えた割合は、韓国40%、中国55%、米国82%、日本18%であり、「自分が優秀だと思う」の問いには、韓国47%、中国

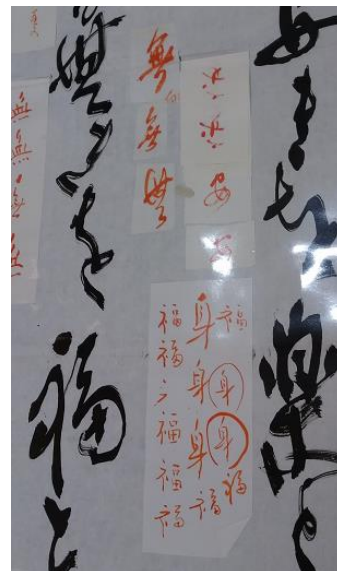
67%、米国 88%、日本 15%、「私は価値のある人間だと思う」の問いに、日本人の 63%が否定的に答えています。

この結果を、日本人の謙虚さの表れと見ることもできますが、アメリカでは家でも学校でもよく誉め、かつ具体的に誉めるそうです。自己肯定感の高い子供の伸びは大きいと言われます。これからの子供がグローバルに活躍するためにも、自己肯定感の育成は重要だと思います。先ず、子供たちのよさをしっかり価値付け、誉める機会を意図的に増やしてほしいと思います。

4 藤田^{うんかい}雲海氏遺作展から

昨年亡くなられた藤田雲海氏の遺作展がおおりに行われました。雲海氏は静岡県書道連盟副理事長や島田市書道連盟顧問を務めるなど、書道界の重鎮です。教育界にも教えを受けた方も多いと思います。

遺作展では、様々な大きさの書が多様な書体で書かれていました。その中で私の目に止まったものが、右の写真の作品（練習帳？）です。雲海氏は、作品を完成させるために様々な書き方をした文字を比べ、最もイメージに合った文字を作品に使っていたようです。誰もが認める技能の持ち主でも、安易に妥協せず、満足するまで追求していたことが分かります。私は、この作品を見て、自分を高める努力が不足していることを恥ずかしく思いました。



肘かけ椅子

南條 隆彦 社会教育課長

「多様性、そして協働、共振」

NHKスペシャル人類誕生は面白かった。ネアンデルタール人と体躯で劣るホモサピエンスが生存競争に打ち勝ったのは集団の大きさだという。十数人に対して桁違いな数百人規模のホモサピエンス集団。それは石器の発達に決定的な差をもたらした。ひとつの石器の発明がより多数の個体に共有されることで幾何級数的にイノベーションが進展する。多様性の為すところだ。

一方、番組で紹介された日本への南進ルートを探明しようとする航海研究プロジェクトは、草、竹、そして石器の斧で1メートルの大木を切り倒して作った丸木舟にたどり着いた。実験結果は、多数のホモサピエンス個体が、共通の目的に向かって一致協働し、試行錯誤を重ねながら、台湾からのルートを切り拓いたことを物語る。

合唱にしても器楽合奏にしても、数人から数十人、マーラーの交響曲では千人が一糸乱れず、絶妙なリズムとハーモニーを奏でる。このオーバースペックとも思える人の能力がどこから来たのか不思議だったが、太古の闇の中、ホモサピエンスが何百人という集団で一致共鳴し、大音声（だいおんじょう）でライオンを追い払っていたと考えれば合点がいく。古代の戦争では、何千何万という戦士が、打ち鳴らされる2ビートの太鼓に怒声を轟かせ進撃したであろう。

個体の学びは、集団の中で発展し、さらに社会全体に広がっていく。広がった学びは、協働という共振によって巨大な矢となり、人々を黒潮とシベリア凍土の先にある未踏の地へ向かわせたのだと思った。